

教育かしま

第61号

発行日

令和7年3月1日

発行

鹿嶋市教育委員会

連絡先

鹿嶋市教育委員会 総務就学課

Tel0299-82-2911(内線521)



(電子版はこちらから)

地域の特色ある教育活動を応援し、開かれた教育環境を推進するための情報を掲載していきます

子どもたちの通学路の安全を守るために

市では、通学路の安全確保に向けた取組みを行うため、「鹿嶋市通学路安全対策推進会議」を設置し、関係機関と連携しながら、協議のうえ取りまとめた安全対策等の内容を「鹿嶋市通学路安全プログラム」として策定しています。

2月4日に行われた鹿嶋市通学路安全対策推進会議では、国土交通省や、茨城県潮来土木事務所、市都市整備部などの道路管理者や、鹿嶋警察署、市市民生活部の職員などが参加し、危険箇所の合同点検の状況を踏まえ、重点的に取り組む地点やその対策について話し合いました。



●「通学路安全プログラム」の進捗状況

今回の会議では、現在同プログラムに位置付けた49か所の対策箇所のうち、対策が完了していない14か所について進捗状況を確認しました。

安全対策は道路管理者による維持補修工事や整備工事、警察署による安全設備の設置等があり、複数年にわたり継続事業として実施しているものが4件、令和6年度に完了する場所を含め、一定の安全対策が完了したものが4件あります。

なお、同プログラム路線に位置付けられたものの、通学状況が変化したことにより、児童生徒への安全教育に切り替えた地点が1か所あります。

【具体例】

継続実施中	大同西小学校区内市道0151号線拡幅事業 中野東小学校区内市道0157号線歩道整備 県道242号鉾田鹿嶋線歩道整備 市道4023号線中野東小学校付近はまなす通り 横断歩道着色
令和6年度完了	鹿島小学校交差点ポール設置
対策検討中	鹿島中学校付近踏切

●「通学路安全プログラム」への追加箇所

令和6年度に学校から報告のあった、通学路における危険を感じる箇所について、12月11日と17日に道路管理者、警察、市教育委員会、学校関係者による合同点検を実施し、その点検状況を踏まえ7つの路線について協議しました。

交差点や歩道等のグリーン塗装、道路・標識の補修、ラバーボールの設置等の安全対策を講じるもの（4か所）、道路管理者等と協議の上進めるもの（2か所）の6か所については、今回の推進会議を経て同プログラム路線に追加し、安全対策を進めていきます。

また、1か所については近くの信号機との距離が近いことため信号の設置が難しいことから、横断歩道の位置の見直しなど安全対策の手法を再協議することになりました。

引き続き、今回取り上げられなかった通学路についても、通学時間帯に走行する車両への安全運転の呼びかけや学校での安全教育等を実施し、子どもたちの登下校時の安全確保に努めます。



鹿嶋市通学路安全プログラムの
ホームページはこちら



▲武井（湖岸線）の横断歩道。交通量が多く危険な箇所



▲市道0153線下り坂にあるカーブミラーの角度や汚れを確認

鹿嶋市の

学校給食

鹿嶋市立学校給食センターでは、特色ある給食献立を考案するとともに、学校給食衛生管理基準に準じて徹底した衛生管理を図り、安全安心な給食の提供に努めています。



給食センターホームページ

★「学校給食」とは？

学校給食は、学校給食法に基づき、栄養バランスのとれた食事を提供することにより、成長期にある子どもたちの健康の保持増進を図るとともに、子どもたちが望ましい食習慣と食に関する正しい知識を身に付けることなどを目的としています。



◆1日5,500食を調理◆

市立幼稚園の園児，市立小中学校の児童生徒，県立鹿島高校附属中学校の生徒や教職員などに提供するため，1日あたり約5,500食の給食を調理しています。

◆食育の推進◆

三笠小・大野中の栄養教諭2人が他の学校で食育授業を行うほか，給食の時間自体が食育の生きた教材としての側面を持っています。また，給食の準備から後片付けまでを協力して行うことや，食事のマナーを学ぶこと，栄養バランスのとれた食事（給食）に触れて理解を深めることも食育です。

また，毎月発行している学校給食献立表（給食だより）にも食育の記事を掲載しておりますので，ご家庭でも食育を考えるきっかけとしてご活用願います。

◆学校給食は地産地消に取り組んでいます◆

鹿嶋市では，鹿嶋市産の特別栽培米を使用したご飯を週3回提供しています。また，毎月19日の「茨城・鹿嶋食材の日」や6月と11月の「茨城・鹿嶋食材週間」では，県産の肉や野菜を普段より多く使用した給食を提供しています。

◆多彩な献立◆

本市では，主食・主菜・副菜・汁物・牛乳の5種を組み合わせる学校給食を提供しています。塩分などを配慮しつつ季節感を大事にした行事食献立や，地場産の食材を使った献立など多彩な給食の提供に努めています。

なお，学校給食献立表（給食だより）・給食の写真・学校給食レシピなどは鹿嶋市のホームページに掲載しています。



左：七夕献立／右：茨城・鹿嶋食材の日献立（コッペパン，牛乳，れんこんメンチカツ，ごぼうサラダ，さつまいも入りシチュー）

◎茨城県が生産量全国1位を誇るれんこんをはじめ，県産のごぼうやさつまいもを使った献立。コッペパンの小麦粉の3割は県産小麦を使用。



学校給食は たくさんの人に 支えられています

●なめがたしおさい農業協同組合から鹿嶋市産の特別栽培米コシヒカリと野菜の無償提供がありました

贈呈式では，安藤組合長から「地産地消，国消国産，地元の物が一番うまい。ピーマン，チンゲン菜など地元の特産物が一番おいしいことを子どもたちにわかって欲しい。たくさん食べて大きく育て」と熱意あふれるあいさつがありました。

無償でいただいた野菜は，12月13日の給食（焼きビーフン・わかめスープなど）に使われ，市立幼・小・中学校と県立鹿島高校附属中学校に提供しました。



鹿嶋市の 学校給食費ってどうなっているの？



現在，市の学校給食費は給食食材の購入費用として，受益者負担の原則に従い，幼稚園児は3,600円，小学生は4,300円，中学生は4,700円を保護者の皆さんからいただいています。

しかし，平成26年度に改定した現在の学校給食費では，近年の物価高騰に対応しきれず，年間の給食食材の購入費用総額と，皆さんからいただく学校給食費総額とを比較すると，令和5年度は約3,600万円不足し，令和6年度は約5,500万円の不足を見込んでおり，市が補填しています。

今後，物価に応じた正しい給食費に改定しますが，令和7年度についても引き上げ相当額は市が負担する予定です。

引き続き，安全安心な子どもたちの心身の健全な成長につながる，学校給食の提供に努めますのでご理解くださいますようお願いいたします。



長い間ありがとうございました

高松緑地温水プール

昭和50年8月に50m・8コースで開業した高松緑地プールは、平成15年に屋内25mの8コースと屋外20mの8コースに改修し、市内外の大勢の方々に利用されてきました。

しかし、施設の老朽化が進み、近年は突発的な故障の発生も増えており、安全面の確保や維持管理が課題となっていました。さらに、温水の熱源として活用していた近隣工場からの蒸気の供給が令和7年4月以降終了することとなり、総合的に検討した結果、令和6年度末をもって高松緑地温水プールを閉鎖することとなりました。

子どもたちの健やかな成長や、市民の皆さんの健康増進の観点からも重要な役割を担う施設であることを踏まえ、存続に向けた調整を進めてまいりましたが、残念ながら長年の役目を終えることとなりました。



40年以上の間、多くの皆様にご利用いただきありがとうございました。

最終開館日は**令和7年3月30日(日)**となります。

大船津保育園

大船津保育園が、令和7年3月末をもち、50年間の歴史に幕を閉じることとなりました。昭和49年6月の開設以来、今年度の卒園生を含め824人の子どもたちが、すこやかに成長し、巣立っていきました。長年にわたり子どもたち、園のためにご支援、ご協力いただきありがとうございました。

50年間の感謝の気持ちを込めて、施設を一般公開します。最後のお別れに、卒園児や地域の皆さまをはじめ、ゆかりのある方に保育所をご覧いただき、思い出のひとつにしていただきたいと思います。



【公開日】令和7年3月22日(土)

10時～15時

【展示内容など】①「これまでの歴史～ありがとう大船津保育園～」スライド上映②記念スポットでの写真撮影③卒園アルバムの閲覧④メッセージコーナーなど

【事前申込】令和7年3月20日(木)までに、下記QRコードから申し込み（お車でお越しの際には、駐車場に限りがありますので事前申込された方を優先とします。

※自転車や徒歩で来園予定の方は申込不要

※上履き、下足袋をご用意ください。



鹿嶋市教育大綱を改訂

このたび、鹿嶋市の教育、学術、文化の振興に関する総合的な施策について、その目標や施策の根本となる方針を定める「鹿嶋市教育大綱」を改訂しました。

令和4年3月策定の「鹿嶋市教育大綱」の期間中ではあるものの、この間、社会情勢が大きく変化しているため、1月23日に開催した市長、教育長、教育委員による総合教育会議での協議を経て、策定しました。

新たな教育大綱では、急激に変化する社会をすべての市民が生き抜くことができるよう、基本理念を「**主体的に学び 人とつながり 未来をひらく 鹿嶋っ子**」と定め、基本理念に掲げる人づくりに取り組みます。

保幼小接続推進委員会の取り組み

鹿嶋市では茨城県内でも先駆けて行っていた「アプローチ・スタートカリキュラム検討委員会」を令和5年度に「保幼小接続推進委員会」に改めました。また、令和4年度に策定し全保護者に配布した「架け橋期のカリキュラム」の更なる改訂に着手しています。

保幼小接続推進委員会は市内全ての小学校と、市内全ての幼児教育施設の代表者に推進委員を委嘱し、就学前から小学校への「架け橋期」について、子どもたちの成長に関わる全ての人と同じ視点をもてるように定期的に研修会を開催しています。

2月14日の委員会では常磐短期大学幼児教育保育学科助教・宗次直巳先生を迎え、共通の視点としての「架け橋期カリキュラム」の作成を行いました。中学校区ごとのグループに分かれ、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」と小学校生活の姿とのつながりを意識して話し合い、「遊びや学びのプロセスで大切にしたいこと」を保育者と小学校教員が改めて考え直すワークショップに取り組みました。





地域資源を生かした 「北浦一周歩く会」

「北浦一周歩く会」は、北浦湖岸をゴミ拾いしながら歩くことを通して、郷土の自然を大切にすることを育むとともに、青少年健全育成や地域住民の交流を目的として昭和56年から実施しています。

今年度も2月16日に豊郷地区まちづくり委員会（豊郷公民館）や豊郷小学校PTA、豊郷地区子ども会育成会の皆さんの連携・協力により開催されました。参加した地域の子どもと大人117人は、豊郷公民館をスタートし神宮橋や延方駅を経てレイクエコーを通過する1周33キロを見事完歩して水と緑の豊かな郷を体感しました。



宮橋や延方駅を経てレイクエコーを通過する1周33キロを見事完歩して水と緑の豊かな郷を体感しました。

マンガかしまの歴史 第5巻 「縄文時代の鹿嶋」(仮題)

(公財)鹿嶋市文化スポーツ振興事業団(鹿嶋市ときどきセンター)では令和2年から鹿嶋市の皆さんに地元の歴史を楽しく、わかりやすく知ってもらうために「マンガかしまの歴史」を刊行しています。

今年度は第5巻として鹿嶋の先史時代にスポットを当て、鹿嶋市ときどきセンター公式マスコット「くりやっほー」を案内人として縄文・弥生時代に鹿嶋に住んでいた人々の暮らしを解説しています。ときどきセンターの発掘調査から見つかる地中の遺跡や遺物からは今とは違う「ゆたか」な鹿嶋を感じ取ることができます。現代の私たちに続く鹿嶋人の最初の一步に興味を持っていただけたら嬉しいです。

※マンガかしまの歴史第5巻は令和7年3月末頃刊行予定です。一般頒布は同年5月以降を予定しています。



施設分離型小中一貫教育の開始 ~各中学校区の学園名を設けます~

グループ名

9年間の連続した学びを意識し、施設一体型小中一貫教育を実施している高松小中学校の成果を踏まえ、中学校区内にある小学校とその中学校を一つのグループとして試行的に取り組んできた施設分離型小中一貫教育を、令和7年4月から本格的にスタートします。

これを機に、一貫教育グループ同士の親和性を高め、さらに外部からも一貫教育の実施がわかるような形で推進したいとの声もあり「〇〇学園」などの名称を設けることになりました。

グループ名は「①「〇〇学園」とすること ②アルファ

ベットは使用しないこと ③地区の特徴を表すものとする」など、一定のルールのもと、児童生徒やその保護者、学校運営協議会委員の皆さんなどの地区の方から、中学校グループごとに募集しました。応募の中から各学校の選考委員会で点数を選出し、投票を経て、最終案を取りまとめた後、教育委員会議で審議・決定します。

決定した「〇〇学園鹿嶋市立△△小学校」という学園名は、各学校のホームページ、鹿嶋市の小中一貫教育のホームページ等にて公表し、正式名称の使用を求められるもの以外は、少しずつ使用を拡大していきます。

氷河期の北浦湖岸をナウマンゾウが歩き回っている姿を想像して、太古の鹿嶋に思いを馳せてみませんか？

写真は津賀の斜面で発見されたナウマンゾウの牙です。昭和56年6月に理科研究部会の小学校の教員7人と野外クラブの中学生4人が、地層の観察中に発見しました。その後、平成26年に茨城県自然博物館の鑑定により、推定年代13〜12万年前のナウマンゾウの切歯(せつし)であると学術的に確認されたため、市指定天然記念物に指定されました。長さは84cm、切口の直径は7cmほどあります。現在は鹿嶋市ときどきセンターに展示しており、実物を見ることが出来ます。

ナウマンゾウは今から約43万年前に大陸と繋がった陸橋を渡って日本にやってきて、約2万年前の最終氷河期に姿を消したと考えられています。北海道から九州まで多くの化石が発見されており、茨城県では全国的に見ても多数産出されています。体高は2・5〜3m、体長は4mと推定されており、牙はマンモスほどではありませんが太く長く、大きく湾曲しています。体毛は寒冷化に適応して長かったと考えられています。

水河期の北浦湖岸をナウマンゾウが歩き回っている姿を想像して、太古の鹿嶋に思いを馳せてみませんか？



写真は津賀の斜面で発見されたナウマンゾウの牙です。昭和56年6月に理科研究部会の小学校の教員7人と野外クラブの中学生4人が、地層の観察中に発見しました。その後、平成26年に茨城県自然博物館の鑑定により、推定年代13〜12万年前のナウマンゾウの切歯(せつし)であると学術的に確認されたため、市指定天然記念物に指定されました。長さは84cm、切口の直径は7cmほどあります。現在は鹿嶋市ときどきセンターに展示しており、実物を見ることが出来ます。

鹿嶋の文化財 第十三回
ナウマンゾウの切歯
せつし

